



特定非営利活動法人日本防災士会・富山県支部 富山県防災士会会報

第 13 号

平成 27 年 10 月 31 日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-9762-8267
(事務局：佐伯)

平成 27 年度県市町村総合防災訓練 『14 自治体に会員延べ 108 名が参加』

8 月 23 日の入善町、砺波市を皮切りに、朝日町、高岡市と続き、10 月 3 日の富山市まで、県内の 16 自治体（富山県と 15 市町村）のうち、14 自治体の総合防災訓練（13 市町会場）があり、延べ 108 名の防災士が参加しました。

内容は、昨年に引き続き、「自助～自ら備える防災・減災対策」をテーマに、災害パネル、都市圏活断層図、家具転倒防止器具展示などのほか、災害時に役立つ簡易トイレの作成や新聞紙でのスリッパづくりなど、参加・体験型を中心に啓発活動を展開しました。



射水市防災訓練（片口小学校）

今年度は、小矢部市や砺波市のように自治体が積極的に支援し誕生した地域在住防災士の皆さんの協力があり、積極的に啓発活動に参加されたことは大きな前進でした。



小矢部市防災訓練（蟹谷小学校）

また、射水市では先生に引率された県立大学の学生（20 人以上）の参加がありました。

自治体によっては新聞紙でのスリッパづくりが大変人気があり、多くの方々の参加がありました。全体的には児童・生徒の参加者が少ないことが今後の課題です。

第 1 回例会 & 交流会 『南海トラフ巨大地震と連動内陸地震』



富山大学大学院
教授 竹内章 氏

7 月 25 日、富山大学災害対策プラザにおいて、第 1 回例会が開催されました。会員 36 名が参加。本会顧問の富山大学大学院教授 竹内章氏から「南海トラフ巨大地震と連動内陸地震」及び最新情報等について講演がありました。

南海トラフ巨大地震が発生した場合のユーラシアプレートに乗っている富山県への影響、糸魚川―静岡構造線が連動する可能性、プレート境界の構造（富山湾・飛騨山脈・フォッサマグナ）、ひずみ集中帯等の地学的特徴から、富山は決して安全とはいえないことを再確認することができました。

また、地震の活動期に入った我が国では、いっどこで発生するか分からない地震に対して、「家具の固定」「水、食料等の備蓄」の必要性や、「自分の命は自分で守る」決意等について、今後とも県民への一層の啓発が必要であることから、防災士としての役割の重要性を痛感させられました。



講演終了後、竹内顧問の同席のもと交流会を開催し、会員相互の親睦を図りました。（記 八木）

第 2 回女性防災士の集い 『避難所運営には女性の視点が重要』

10 月 17 日、富山県民共生センター サンフォルテにおいて、県内から 15 名の女性防災士が参加して「第 2 回女性防災士の集い」が開催されました。この集いは、実践活動の紹介や実習を通して交流を深め、今後の活動や地域防災力の向上等を目指すものです。



男女共同参画推進員
南砺市連絡会副代表
笠野 裕美 講師

はじめに男女共同参画推進員南砺市連絡会副代表の笠野裕美講師による「男女共同参画の視点から作成した避難所運営マニュアル」に関する基調講演があり、マニュアルを作成する過程などの貴重なお話を頂きました。

続いて、女性の視点に立った「避難所運営ゲーム(HUG)」を日本防災士会・石川県支部副支部長の 大月真由美講師の指導のもと、参加者が 5 班(男女別)に分かれて行いました。



日本防災士会
石川県支部副支部長
大月 真由美 講師

結果発表では、女性のきめ細



かな視点での捉え方などが感じられ、大変有意義な体験だったと思いました。

参加者から「早速 HUG を地元でやってみたい」「このような集いの輪が大きくなるように」などの感想が寄せられていました。（記 佐々木）

新入会員
自己紹介

きっかけは女性消防団
～女性の視点で防災活動を～
防災士(富山市) 林 晴美

私は大沢野女性消防分団に所属し活動をしてきた事がきっかけで、上二杉自主防災会の推薦を受け平成25年に防災士養成講習を受講、11月に認証を得ました。

現在、女性分団の一員として家庭防火訪問、寸劇、子供たちへの防火教室などの活動に参加しています。

昨年、「第20回全国女性消防団員活性化ちば大会」に出場。『水戸黄門～越中編～ある茶店での出来事』という題で、火災警報器の設置、点検及びAEDを使用した救命講習の受講を促す内容の寸劇を演じました。

私の住んでいる上二杉地区では、煙体験、簡易担架の制作、消火器の取扱い方法など町内最大規模の防火訓練が行われ、とても良い体験になりました。



富山市消防団『水戸黄門～越中編～ある茶店での出来事』

これからも、微力ではありますが、女性ならではの視点で地域に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

現地見学会を実施
『糸魚川 — 静岡構造線と
フォッサマグナ ミュージアム』

今年の現地見学会は10月1日に開催。フォッサマグナミュージアム（糸魚川市）を見学しました。

昨年に続き、今年も悪天候のため立山カルデラ体験学習会は中止になり、急遽、フォッサマグナ見学会に変更になりました。参加者は21名。

移動中のバス内では各人が防災士になった経緯、今後の夢・抱負等について自己紹介。会員の新たな一面を確認しあいました。



糸魚川—静岡構造線の断層露頭は、幅約2mの断層破砕帯です。この断層は白～褐色の破砕帯で、その右側は暗褐色の安山岩（1,600万年前）、左側は暗緑色の変はんれい岩（4億年前）に挟まれています。形成年代が違う岩石が、破砕帯に接していました。これが太平洋側まで断続的に追跡できる糸魚川—静岡構造線で、フォッサマグナの最西端です。

同ミュージアムではナウマン博士の遺品、日本列島誕生のシアター、周辺で発掘された鉱物類や採集品などを見学。次に、火山角礫岩からなる能生・弁天岩を見学後富山県朝日町の不動堂断層を見聞して、大変有意義な見学会となりました。（記 佐伯）

11月 相互研修会のご案内

- 日時 平成27年11月7日（土）
午後1時30分～4時10分
- 場所 高岡市福岡防災センター
- 講演会 『防災気象情報の利活用について』
講師 富山地方気象台次長 永井直昭氏
- 相互研修
『心肺蘇生処置（AEDの使用訓練）』
講師 関防災士、野田防災士

＜編集後記＞

本年も多くの災害が発生しています。とりわけ常総市の水害は、平日・日中の鬼怒川堤防の破堤が引き金となる大きな被害でした。気象庁予報課長は、「台風の風がぶつかりあい、積乱雲が堰き止められるような形で帯状につながる例は珍しい。記憶にない」とコメントしています。我々の活動はこのような災害に対しても事前準備(そなえ)の必要性を広く県民に周知する活動であり、かつ立場でもあります。

今回、平日・日中という状況下でのこの災害で、自主防災組織は機能したのでしょうか。洪水ハザードマップでは浸水水位を想定していたのでしょうか。様々なことを考えさせられる災害事例でした。（Y）



12月 研修会・交流会のご案内

- 日時 12月5日（土）午後4時～5時30分
- 場所 富山県民会館702号室
- 講演会（仮題）『原子力災害と防災士の役割』
講師 福井大学附属国際原子力工学研究所
原子力防災・危機管理部門
安田仲宏教授（理学博士）
※終了後に忘年会の予定（富山駅前）
引き続きご出席ください。午後6時～8時